

第4回(仮称)彦根市新市民体育センター建築設計検討委員会



日時 : 平成29年8月7日(月)

10:00~12:00

場所 : 彦根市役所5階

第3委員会室

出席者: 別紙のとおり

≪議事≫

(1) 平面計画・動線計画について

委員長: 合築によるメリットを得るために、コストが余分にかかるは無駄遣いではないかという指摘があるため、A・C案を詳しく説明いただきたい。実際、別々の建物を建てる場合と一体的な建物を建てる場合とでは異なる。単純に見積もると、面積が増えるとコストが上がるように見えるが、建物全体の計画の中で、調整が可能であり、コストを削減出来るという事か。

コンサル: 2階の接続部は、体育館全体の平米単価を単純にかけると過大な増額に見込まれてしまうが、もとより渡り廊下としてA案にもある。外壁を増やすことになるので平米単価は低く、差額は非常に少ないものとなるので、全体の中では部分的である。C案で設計を進めることが可能と考えている。

委員長: コストについては十分意識してC案を選んで進めていると説明を尽くしていただきたい。この件はこれで良いだろう。

委員: 前回、委員長から燦ぱれすに関する施設の配置について、再検討する場を設けるという意向があったため、7/14に協議を行った。できるだけコストもサイズも小さくしたいという思いから2階の吹き抜けをフロアにしたら良いのではないかと、高齢化社会となり文化施設はより高齢者が利用することが考えられるため、分かりやすいように文化施設は集約した方が良いのではないかと再度提言したが反映は難しいようである。現状の配置図、設計からするとやむを得ないと感じている。また、文化功績者として、燦ぱれすの利用者としてだけでなく、委員として、文化振興行政に役立つ発言をしなければと考え発言しているが、市内の芸術者が以前から要望している展示会場が彦根市に無いことが不満である。市民会館の1階をやむを得ず使っているが、冷暖

房が効かず、駐車場が狭隘で来場者からの苦情を聞いている。是非、市としてしっかりとした展示場を作っていただきたいと要望した。多目的会議室を会場とする話もあったが、利用が多く、展示会は5日間ほど通して会場を使用することから、間に利用が入れなくなり、専用の照明も必要になると考えると、2階の接続部に設けることになった。工夫は出来ると思うが、この配置しかないのかなということになった。

委員長：文化とスポーツ、体育館と燦ぱれすを離した方がよいが、2階で交流することに関しては、展示スペースを確保するならば合意できるという趣旨として理解してよろしいか。

委員：良い。

委員長：配置案は、吹き抜けを作ると展示コーナーは確保できないという趣旨か。

コンサル：吹き抜けは無くても良いという意見もあった。1階への光の通り抜けを考えるといけないが、プランとして一旦提示した。

委員長：1階は多くの方が通り交流が生まれるポイントになるので、そこに光を通して2階と1階をつなぐメリットがある。考える余地はありそうだ。

委員：展示コーナーはオープンで良いのか。パーテーションや収納スペース、喫茶コーナーとの間仕切りのイメージは。

委員：区画をされたい。2m50cm程の高さのパーテーションが必要となる。大作を吊る場合は壁面も必要となり、加えて上からの照明が要る。

コンサル：間仕切りは可動とし、普段は広々とした空間を確保しつつ、展示の際に引き出すことを考えている。多目的会議室を同じように照明や展示も出来るようにと要望があったので、まずは、多目的会議室が主になり、ロビー展示にも対応できるように間仕切りを作る必要があると考えている。

委員：イメージとして、展示をしている時としていない時のスケッチなどがあった方が分かりやすい。

委員長：参考資料に市民会館の展示会利用状況があるが、利用者をあてがえたいというのが委員の提案である。文化とスポーツの両方の人が見に来てくれる場所が接続部にあると良い。まちなか交流というように、ここが新しい施設のウリになる場所になるかもしれない。ここだけではなく、施設全体に広がっていく展示の方法もあると思う。本当の意味で交流が起こるような施設にされたい。

委員：市民会館のギャラリーは、抽選会で優先的に使用が決まる。不十分だが、燦ぱれすのロビーや文化プラザ1階通路部のロビーでも行っており、利用者はまだある。確りとしたギャラリーを作れば利用者は増えるだろう。そもそも、市民会館は耐震が出来ておらず、近々廃止にするのでは。展示会場がなくなるのであれば、今回その受け皿として作っていただきたい。

- 委員：スポーツと文化がつながり、交流が生まれるのは良いことだが、喫茶コーナーと展示コーナー両方が設置された場合、通常の通行は可能か。避難経路として必要な幅はとれるのか。通路部を広げても良いのではないか。
- コンサル：避難通路として1.5m確保したい。通路部は、適切なサイズにまとめたい。
- 委員長：指摘された医務室周りの変更は良いか。
- 委員：良い。
- 委員長：トレーニング室とダンス室の変更もよろしいか。残る変更点で、授乳室・託児室については改善されていると考えて宜しいですね。弓道場について意見は。弓道場は看的板の設置スペースとして袖を拡幅しているが、どれぐらいの増加か。
- コンサル：安全確保のためギャラリーも後退させたが、建物全体の面積は増えておらずコストは増加していない。
- 委員長：使いやすいように軽微な変更を加えたということである。どの団体の意見か説明いただけるか。何回行われたか。
- 事務局：市弓道連盟の会長をはじめ役員と打合せをしている。大小合わせると細かに行っている。
- 委員長：参加者のリストや協議の経過の記録を公開していただけるか。
- 委員：使用される競技団体の意向をしっかり捉えることは重要な事であり、是非頻繁にやりとりしていただきたい。
- 委員長：それでは11ページに戻り2階の平面図2案があるが、避難通路としての動線を確保することは踏まえたうえで、展示コーナーを設けることに関して了解いただけるか。
- （異議なし）
- ではこれで進めることとしたい。
- 委員：交流ストリートに面して柔らかい形で建物が接しているが、2階は壁が多く閉鎖的な感じである。工夫できないか。
- 委員長：体育施設も文化施設も中の人動きが外から見えると良い。是非、配慮いただきたい。他何かあるか。
- 委員：交流棟は高齢者の利用が多くなると考えられるため、ユーザーフレンドリーな施設にしていきたい。1階入口付近にカウンターを設け対応するとあるが、図書の対応に追われ、施設利用者に対応するのは難しいのではないか。体制を考えていただきたい。
- 事務局：交流棟では、施設の案内や図書の貸し借りの対応を行う。また、近くに事務所があるので連携しながら、運用面で対応することになるかと思われる。
- 委員長：スタッフを配置すると経費もかさまみ利用料にも影響するので、過剰な利用料の増額にならない方法を委員会とは別に考えていただかないといけない。平

面計画について一旦これで終了してよろしいか。それでは構造の説明をお願いします。

(2) 構造・設備計画について

委員長：冒頭に説明があったように、29 ページ熱源に関して議論いただきたい。設備が過剰になっていないか検討することが主眼になる。

委員：最近豪雨による被害が多いが、地盤レベルの基準は 131mm/hr で良いか。北側は 1m 上がることになるが、アプローチは。出入口で 1m の段差ができることはないか。

事務局：雨の想定については県が滋賀県全域における浸水想定を行ったものであり、過去の実績から算定されている。出入口は前面道路と同じ高さとし、建物はスロープでアクセスできると考えている。

委員：省エネ対策では具体的に何を取り入れるか決まっているのか。太陽光や屋上緑化は。費用対効果も考えなければならないので、採用するものを具体的に示してほしい。

コンサル：まず 1 番の自然通風。普段の利用時には自然換気で出来るだけエネルギーを使わないようにしたい。他にも、同様に 11 番の地中熱や、雨水を利用することが主眼となる。コストとの兼ね合いにもなるが、自然換気は間違いなく取れるようなシミュレーションを重ねたい。太陽光発電は災害時の対応として一部利用できるため 30kw としているが、適切な規模を配置したい。

委員：構造は、工程も加味して RC を選んでいるのか。また、耐震性のⅡ類などは市と協議したうえで決定したのか。

コンサル：協議している。まずはコストの安いものを利用してきたい。RC 構造として、強度をもたせ地震時にも変形しない架構とすることが良いと考えている。

委員：耐震壁を用いて RC とするということがだが、できるだけ建物がフレキシブルなように会議室などの配置を自由な計画にされる方が良いと思う。摩擦杭は慎重に検討していただきたい。

委員長：体育館の天井が落下した事例もあるので十分配慮されたい。他いかがか。

委員：エネルギーの比較検討において、ランニングコストに大規模修繕の費用を見込んであるか。トータルのライフサイクルコストが重要であり、イニシャルが多少高くなったとしても、ライフサイクルコスト、特にランニングコストが軽減できるような設備であれば、取り入れるべきだと考える。市の使用料の算定基礎はイニシャルとランニングコストも含めるため、ランニングコストの詳細な資料を示していただきたい。ただし、オーバースペックは慎まなければならない。

コンサル：電気に比べ、燃焼機器のガスはメンテナンス費が割高となるが、そうした費

用、メーカーとのメンテナンス契約等の費用はランニングコストに計上している。ただし、一般的には計上しない不確定な部品交換は含めていない。また、燃焼機器があるものは15年、電気は20年で一度更新が起これると考えており、1回更新するものは計上している。具体的にダクトやガスの引込管については掘り返すことはないのでそのままの費用としている。イニシャルコスト、ランニングコスト、30年間のライフサイクルコストは表の通りであり、比較できるのではないかと。

委員： 了解した。

委員： 熱源の比較においては、コストだけを見ると案2が一番良いが、災害時のライフラインの復旧についてはガスに比べ電気の方が早いので、一部分に電気を採用されたい。方針としては一番安価なガスを主とするが、一部分は電気とし、災害時に備えたい。

コンサル： エリアを見直して検討資料は再度作り直したい。

委員： 運営側からするとランニングコストが出来るだけ軽減できる方法が良い。加えて、災害時の対応も念頭に置く必要があるので、案2を軸とし、委員が言われた方向で検討していくと良いのではないかと。

委員長： 防災の機能など示されているが地元からは何かあるか。他、照明や空調についても意見があれば願います。

委員： 競技に関して、スポーツの観戦が多様化し、VリーグやBリーグは大半が映像を用いて大会運営をされる。他の競技でも全国大会以上となると同様である。大型映像装置は是非設置して欲しい。空調は、バドミントンの競技運営に支障をきたすことのないよう、風の出口を配慮いただきたい。

事務局： 大型映像装置等は設置できるように配線や設備を設けたいと思うが、そのものを設置するかは今後検討したい。

委員長： アリーナの大型映像装置はどれぐらいかかるか。

コンサル： 定価で1億から3億円ほどと思われる。

委員長： 委員の意見は議事録に残すが、設備投資をするか否かは市が決めることになりそうである。

委員： 障害はその特性に応じて対応が変わるので、担当部局と協議して欲しい。国体後は全国障害者スポーツ大会が開かれるので、常設で必要なのか臨時の設置で差し支えないのか情報収集し、対応して欲しい。

委員長： 体育施設のハードについては、担当部署との協議を重ねたうえで、市としての方針を出して頂きたい。

委員： 資料5 照明の一覧の中に、作品照射用の照明を加えていただきたい。連絡通路において展示する場合、直射日光は作品を劣化させ、また作品が見えにくくなるので、配慮していただきたい。

委員：空調は時間帯やシチュエーションなどに応じてシミュレーションされた方がよいのではないか。

展示コーナーで直射日光を遮るということは、暗幕で覆う様なものか。

コンサル：そこまでの展示をされる場合は多目的会議室を借りる方がよいのではないか。共用部を100%遮光するのは難しいと思われるので、カーテン等、区画できる部分ではそうすることとし、それ以上の設備が必要な場合は多目的会議室で行う方が現実的であろうという話ではなかったか。

委員：多目的会議室で照明を設けるのは難しいため、接続部で設けるということではなかったか。机や椅子をよけ、多目的会議室で展示会を開くことは出来るのか。

コンサル：前回の協議では、多目的会議室と共用スペース両方に照明が必要だと言うことだったので、そのように考えさせてもらった。

委員：了解した。

委員長：庇や展示コーナーの配置など、建築的な解決方法はあると思われるので、有効なコーナーにしたい。空調も工夫され、断熱や遮光を配慮し計画されたい。

熱源の比較検討については、案2をベースとし、災害時にも配慮するが、コストに影響しないよう電気も確保するということが結論かと思う。

構造に関しては、耐震性能が高いRC構造を採用し、低コストの組み合わせによって架構をする、ということで理解をいただいた。

では、質問意見が出尽くしたようなので、審議は終了する。

議事録に関しては後程事務局と調整する。

事務局：今回は、10月2日（月）午前10時から12時を予定したい。会場等詳細については、後日書面で案内させていただきたい。

以上